

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	令和元年度 第1回所沢市産業振興ビジョン推進会議
開 催 日 時	令和元年5月31日(金) 10:00~12:00
開 催 場 所	所沢市役所高層棟6階 604会議室
出 席 者 の 氏 名	河藤佳彦 三上誠 大谷木康一 大木敬治 新井重雄 梶由紀子(早退) 千年篤 竹村勝 橋本徹
欠 席 者 の 氏 名	成田知栄子 朝倉はるみ
説明者の職・氏名	
議 題	(1) 平成30年度事業実績の報告について (2) 令和元年度の取組みについて (3) その他
会 議 資 料	(資料1-0 所沢市産業振興ビジョン) 資料1-1 所沢市産業振興ビジョン推進会議 委員名簿 資料1-2 平成30年度所沢市産業振興ビジョン推進会議報告書 参考資料1 平成30年度所沢市産業振興に係る懇談会 結果概要
担 当 部 課 名	産業経済部 部長 植村里美 産業経済部 次長 市川博章 産業経済部 産業振興課 課長 青木邦雄 主査 高橋利成 主任 菅井悠登 産業経済部 商業観光課 課長 柳田晃芳 主幹 吉永寿久 産業経済部 農業振興課 課長 青木一圭 主査 野島博行 主査 長谷川力 産業経済部 産業振興課 電話 04-2998-9157

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
青木（邦）課長	<p>開会</p> <p>昨年度まで本推進会議の委員としてご参加いただいていた関東経済産業局の石原委員と埼玉県西部地域振興センターの櫻田委員が4月の人事異動によりご異動された。そのため、本日の会議から、関東経済産業局地域経済部地域振興課長の竹村勝様、西部地域振興センター担当部長の橋本徹様に委員としてご参加いただくこととなった。お二人には、先ほど産業経済部長より委嘱状を交付したのでご報告する。</p>
河藤会長	<p>あいさつ</p> <p>新年度の異動に伴い、委員、事務局から簡単な自己紹介</p> <p>議事（1）平成30年度事業実績の報告について</p>
会長	<p>本日の議題（1）平成30年度事業実績の報告について、事務局より説明願いたい。</p>
事務局	<p>資料1-2に基づき、先導プロジェクトAについて説明</p>
会長	<p>先導プロジェクトAについて質疑、意見があれば願いたい。</p>
会長	<p>特に意見が無いようなので先に進めるが、他に質疑があれば、後ほど全体を通しての時間を作るのでそのときに願いたい。</p> <p>事務局は、引き続き、先導プロジェクトBについて説明願いたい。</p>
事務局	<p>資料1-2に基づき、先導プロジェクトBについて説明</p>
会長	<p>先導プロジェクトBについて質疑、意見があれば願いたい。</p>
会長	<p>質疑がないので、事務局は、先導プロジェクトCについて説明願いたい。</p>
事務局	<p>資料1-2に基づき、先導プロジェクトCについて説明</p>

会長	先導プロジェクトCについて質疑、意見があればお願いしたい。
会長	質疑がないので、先導プロジェクトDについて説明願いたい。
事務局	資料1-2に基づき、先導プロジェクトDについて説明
会長	先導プロジェクトDについて質疑、意見があればお願いしたい。
委員	重点事業2『新規就農円滑化推進事業』で、新規就農者に補助金が出ているようだが、後追い、結果報告などはしているのか。所得の状態などは確認しているのか。
事務局	<p>新規就農者は本事業以外に国からの交付金が出ていて、支給にあたって市と県が協力して現地調査やヒアリング、就農状況の確認などの調査を行っている。新規就農者とは事あるごとに連携を密にして進めている。</p> <p>また所得については、国の交付金には所得制限があり、青色申告などを確認して所得に応じた交付金を支給している。</p>
会長	他に質問があればお願いしたい。
委員	新規就農者に対して10haの利用権設定がされているが、平均の農地面積にも近く、適切かと思う。具体的には、どのような作付けがなされているのか。
事務局	作付けは出荷先にもよるが、直売所に出荷する新規就農者はトマト、葉物野菜など多品種である。個人商店やレストランへの出荷もある。また、ネギに特化するなど加工用野菜としての出荷もある。新規就農者は社会経験があるため、経営者としての感覚も持っているようだ。
会長	先導プロジェクト全体を通して、質疑があればお願いしたい。
委員	説明を受けて感じたが、目標設定や実績の数字以外に、質的な内容も記載して残した方がよい。例えば先導プロジェクトB 重点事業1『地域資源活用・ものづくり総合支援補助事業』を例にすると、

	<p>2018年は目標5件に対して実績は2件だが、中身は刈払い機の部品開発など質的には素晴らしい内容である。先導プロジェクトD 重点事業2『新規就農円滑化推進事業』に関しても同じで、実績0人も前年度が多かったことが理由である。後に残るものであり、実績や件数などの数字だけでなく、質的な良さなど内容も補足で記載して残すべきである。</p>
会長	<p>進捗状況の欄、あるいは別の項目に記載する方法もあるかと思うがいかがか。</p>
事務局	<p>進捗状況の欄にできるだけ詳細に記述するようにしたい。</p>
委員	<p>先導プロジェクトCで目標指標としてあげる『観光入込客数』の実績値で、2015年だけが前後の年度と比べて50万人程度多いが、何が要因か。</p>
事務局	<p>『食の駅 所沢』がオープンしたことの影響は特に大きかったようだ。また、手元資料が無く記憶の範囲だが、市内で開催されたイベントが例年よりも多かったように思う。メットライフドームを使用する外部イベントが盛んであったり、西武ライオンズがクライマックスシリーズに進出したことも大きかったのではないか。</p>
委員	<p>イベントによって入込観光客が増えるということは、潜在的な力があるということだろう。</p>
委員	<p>『企業支援ハンドブック』以外のパンフレットは、どのような所に配布されて、どういう目的で使われているのか。所沢商工会議所にも『所沢ブランド特産品』『工場・研究所等立地ニーズ』は置いてある。他にどういったところに置いているのか。</p>
事務局	<p>産業振興課で言えば、各パンフレットに関連する事業者や機関に送付等しているが、『所沢ブランド特産品』については、所沢駅構内や公共施設にも置いている。商業であれば、各商店街や関連する事業者などに送っている。</p>
事務局	<p>農業分野で言えば、市民を対象とした地産地消を念頭に『農産物直売所ガイドマップ』を公共施設に置くとともに、ホームページに</p>

<p>会長</p>	<p>掲載しているほか、各種イベント時に来場者に配布を行っている。</p> <p>パンフレット等について、それぞれの目的・対象に合わせて配布することは、その効果とも重要な関係がある。全体を把握するなかで、個々の活用の仕方も検討して欲しい。</p>
<p>委員</p>	<p>先導プロジェクトA 重点事業2『(仮称)未利用スペースオフィス化事業』について、進捗状況には遊休市有地情報を照会しているとある。所沢市では、遊休市有地を確保した際に、どのような利用・活用を考えているのか。</p> <p>具体的な事例では松本市で同様の取組みがあり、中心市街地のビルの一角を有効活用し、市の産業支援センターが中心となって、ICT拠点としている。ここでは3つのテーマ『共創』『働き方改革』『女性活躍』を設けて、これに沿って、ワーキングスペース、テレワークスペースとして企業向けに活用予定とされている。ワーキングスペースは事業者間交流を促す場として新たなビジネスの創出の場にしていく、またテレワークスペースは市内製造業のバックオフィス機能(経理、総務等)を移転させ、働く時間の限られた女性を新たに雇用して柔軟な働き方を提案していくという取組みである。</p>
<p>事務局</p>	<p>市内に拠点となる施設・ビルの予定はない。この事業では、あくまで市内で空いているオフィス等スペースを利用していただき、都市型産業と呼ばれる小規模ながらもこれから伸びていく事業者を企業誘致(拡張移転を含む)のターゲットとした事業である。</p>
<p>委員</p>	<p>経済産業局では他地域の事例もあり、場合によっては紹介させていただきつつ、参考として欲しい。</p>
<p>会長</p>	<p>先ほどの委員の話は、市の所有している公共的な施設について、産業施設としての利用計画があるかということだと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>公共施設で誘致のできるような施設は現状ない。あくまでも民有地・施設で探してもらう状況である。利用可能な施設について不動産協会、宅建協会からも情報提供をお願いしていて、市の方では事業者の募集をしている。</p>

会長	産業振興拠点的な機能を、市の既存施設を使って整備するとも理解できるので、表現の修正が必要だろう。
事務局	昨年度、水道局が旧水道庁舎の跡地を 30 年リースで募集したことがある。また、市の遊休地があったため、用地として宅建協会等に情報提供をしたこともあった。いずれも、建物などの施設ではなく用地としてで、現在は利用が決まっている。
会長	公的な施設を民間に貸しつける場合は、具体的にどのような形態で利用するのかということを検討する必要がある。一般的には、このようなケースでは、市が主体となって貸し付けるとなると、産業振興拠点としてのあり方の中で考えていく。ただ単に市有地を貸し付けるということは、制度的な仕組みも考えておく必要があるだろう。公有地、公有施設を利用するときの権利関係も含めて、誤解が生じないような表現が必要である。
	梶委員 退席
会長	では、ここから 2 つ目の議事に移りたい。事務局からの説明をお願いします。
	議事 (2) 令和元年度の取組みについて
事務局	先導プロジェクト A について説明
会長	自由に質疑をお願いしたい。 『工場・研究所等の立地ニーズ』に関して、準工業地域であれば住工混在の問題もある。住民との関係は注意を払っているのか。
事務局	パンフレットの写真にもあるように、両端は住宅が隣接している。企業から問い合わせがあった際は、こうした現状を伝えた上で、予め騒音や振動が出る事業は不向きであるとアナウンスすることになっている。
会長	是非、企業に対しては事前のアナウンスをして欲しい。順序が逆になると、後々住民との摩擦が生じ、トラブルの元となる。

会長	続いて、先導プロジェクトBについて説明を願いたい。
事務局	先導プロジェクトBについて補足説明なし
会長	質問が無ければ、先導プロジェクトCについて説明をお願いしたい。
事務局	先導プロジェクトCについて説明
会長	質問があればお願いしたい。
委員	<p>重点事業2『(仮称)狭山湖周辺活性化事業』の『クアオルト健康ウォーキング』は県の商業サービス産業支援課の事業で、所沢市が積極的に取り組んでいただいている。今年度も協議会を中心に、利用者の拡大や関連サービスの促進を図っていく予定である。所沢市の取組みは今後のモデルケースになると思われる。</p> <p>また重点事業3『(仮称)観光客回遊性創出事業』について、県は戦略的広域観光を推進している。その一環で、観光地経営のかじ取り役である日本版DMOとしても展開する一般社団法人埼玉県物産観光協会が事務局となって、県内市町村の各観光協会が参画する市町村観光協会連合会が発足している。県内の観光情報を集約し、観光協会の専門職員も配置して、一括してプロモーションをしていくことになった。広域観光という視点も加えて、連合会も活用して欲しい。</p>
会長	県の協力、連携は貴重であり、有効活用していくべきである。
委員	<p>先導プロジェクトBの目標指標に『製造品出荷額等』を掲げているが、『RESAS』から抽出した所沢市の産業構造を分析したデータがある。これによると、所沢市の製造業の産業特化係数は、食料品製造業が高いという特徴がある。特に付加価値額と従業者数の特化係数が非常に高く、反面、労働生産性の係数は全国的にみると低いという分析結果がある。今後は、生産性を高めていく取組みができるかがポイントかと思う。</p> <p>また同じく、重点事業2『(仮称)地域の中核となる事業者等応援事業』では、対象となる中核企業のリストアップを課題として掲げられているが、ご紹介した『RESAS』を使うとその地域の中核企業</p>

<p>会長</p>	<p>となりうる候補企業も検討できるシステムになっている。活用をいただければと思う。</p> <p>一般に、大都市周辺地域は食料品製造業や都市近郊農業に適している。『RESAS』のデータを有効活用することと合わせ、工業統計調査等公的な調査データを使って客観的に分析することが大事である。</p>
<p>事務局</p>	<p>ご指摘のとおり、所沢市は野菜加工、茶加工等食料品製造企業が多く、また新たに大きな野菜加工工場もできる予定でニーズは高い。相談も受けており、誘致できるような体制を整えていきたい。</p> <p>『RESAS』に関しても、以前、経済産業局の職員の方が来られて勉強会を開催した。積極的に活用していきたい。</p> <p>また、生産性についても委員からも指導を頂きながら、市としても少しでも付加価値の高い商品の開発に協力をしていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>中核企業に関する支援は、国でも地域未来促進法関連で支援策を用意しているので連携して取り組んでいきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>先導プロジェクト C 重点事業 2『（仮称）狭山湖周辺活性化事業』について、県が本気になれば観光客の誘致は可能と考える。市、県、都が協力して周囲道路の舗装整備と周辺の産廃業を排除できれば、東の(株)KADOKAWA（ところざわサクラタウン）、西の狭山湖と唄えるほど観光資源は揃っている。</p> <p>以前、西武鉄道(株)に「何故所沢市内にプリンスホテルができないのか」尋ねた際、「中心市街地よりも狭山湖畔であれば可能性はあるかもしれない」と話されたことがあった。以前、湖畔荘という市の宿泊施設もあったが、水と緑は最高の資源であり、サイクリング、クアオルトなど、狭山湖を観光拠点とした観光客誘致を行うことで、将来的にすばらしい観光資源になると思われる。</p>
<p>事務局</p>	<p>今週月曜、5/27に狭山丘陵観光連携事業推進実行委員会内の協議会が開催された。実行委員会に正式にオブザーバー参加されている埼玉県西部地域振興センターの地域振興担当の方が、埼玉県の窓口として取組むことになった。狭山丘陵の動きに関しては、埼玉県の取組みにつながるような情報をしっかり受け止めていただけるようにしたい。</p>

<p>会長</p>	<p>水と緑は最高の資源という言葉もあったが、所沢市には都市機能もある素晴らしさを持っている。 続いて、先導プロジェクトDについて説明をお願いしたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>先導プロジェクトDについて説明</p>
<p>会長</p>	<p>先導プロジェクトDについて質問はないか。</p>
<p>会長</p>	<p>特に先導プロジェクトDに限ってのご質問はないようなので、残された時間は皆様から、昨年度の実績報告、今年度の取組み、その他全体を通してのご意見を順に伺いたい。</p>
<p>委員</p>	<p>JA いるま野としても、新規就農者支援に関しては今後も所沢市と協調性を持って取組んでいきたい。農業塾、市民農園、農業体験なども同様である。</p>
<p>委員</p>	<p>商店街という立場で、所沢の中でどうやって生き残っていけるのか。そう考えると、昔から言われる『商いの場』ということが、こういう中でどう反映できるのか。商店街が弱くなって、経済的機能も、公共の場としての社会的機能も弱まっている。商店街の存在をどうやって表したらいいのか、非常に悩んでいる。プロジェクト一つ一つの中で意見を求められても、うまくまとめられず難しいところである。 一つ確認したいのは、『所沢ブランド特産品』が所沢市認定品とされている。これはどんな基準で認定されているのか知りたい。悪く考えると、特産品のどれかがうまくいかなかった時、所沢全体のイメージも悪くなるように思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>『所沢ブランド特産品創出支援事業』は3カ年の事業で取組んでいる。所沢の地場産物を活用した商品、所沢の魅力や地域資源を発信できる商品、所沢の伝統文化、風習を活かしたもの等、食べ物にこだわらず、工芸品、雑貨なども含めて、所沢らしさや所沢らしい特産品、所沢土産になるものを創りたいということではじめた事業である。地域の文化、農産物をどれだけ取り入れているかが、審査の基準となっている。</p>

委員	<p>まちの名前をつけた商品となれば、地ビールなどもそうだが、百年単位というところもあるようで、少なくとも数十年単位の長い年月をかけて町の名前をつけている。3年ということでもいいが、もう少し長期的な単位で考えなければいけないように思う。</p>
事務局	<p>3年というのは補助事業の期間である。認定支援自体は、引き続き継続の予定である。</p>
委員	<p>観光協会はこれまで商業観光課が事務局として協力いただいた。東所沢に来年ところざわサクラタウンがオープンし、150~200万人の観光客が見込まれる。市内も再開発で観光客の増加が見込まれる。狭山丘陵の観光開発の計画も期待している。我々も新たに『一般社団法人所沢市まちづくり観光協会』として、自主独立の気持ちで独り立ちできるよう、まちづくり、産業振興に役立ちたいと思っている。</p>
事務局	<p>市の観光事業は、(株)KADOKAWAが進出し、所沢駅周辺の再開発も進み、狭山丘陵というエリアの注目も高めようというタイミングである。観光協会が独り立ちして、稼ぐ力を最大限発揮していただき、市と両輪となって、観光振興に取り組んでいきたい。</p>
委員	<p>先導プロジェクトB 重点事業2『(仮称)地域の中核となる事業者応援事業』に関して、前回の会議でも前任者が話しているが、県で大変力を入れている経営革新計画承認事業者も抽出・検討の一つに入れて欲しい。所沢商工会議所とも連携しながら進めている事業であり、現在、承認を受けて計画を動かしている市内の事業者は35者である。</p> <p>また先導プロジェクトDに関わるが、県では『多様な働き方実践企業認定制度』に取り組んでいる。平成24年から始まった8年目の事業だが、内容は、短時間勤務制度やフレックスタイムなどを導入し、仕事と子育ての両立支援を取組んでいる企業を認定していくものである。認定企業は3月末で2,800社を超えており、今年度末に3,000社を目指している。認定企業のメリットは認定証や盾などが想定されるが、認定企業にアンケートをとったところ、『求人面のイメージアップ』『県融資の審査の優遇』『職場の定着率の向上』『社員のモチベーション向上』のほか、人材確保にも効果があるようだ。市内企業の認定に向けて、市でも紹介等をお願いしたい。</p>

	<p>なお、認定制度は、若手の求職者を探している企業にも制度紹介のチラシを作って配布している。所沢市の認定企業は5月1日現在で105社である。</p>
事務局	<p>紹介のあった県の取組みは、市内企業にも声掛けをしている。できるだけ認定を受けていただいて、人材確保につなげて欲しい。県が作成している冊子も、市内企業の紹介があるので、PRにつなげていきたい。</p>
会長	<p>県の施策は市の施策の中に引き込んで、有効活用して欲しい。</p>
委員	<p>今年度、関東経済産業局では、自治体の産業振興政策や具体的なプロジェクトにも連携して取組んでいくこととしている。この産業振興ビジョンの実現に向けて、さまざまなネットワーク（金融機関や支援機関）を拡大し、県や国の支援策も活用しながら取組みを進めて欲しい。</p>
委員	<p>観光や農業は、これから工夫すべきことはいろいろあるが進んでいるように感じる。工業は、現存の企業支援だけでなく、三ヶ島工業団地の拡張による企業誘致等、新規産業創出に期待している。</p> <p>所沢市はもともとベッドタウンだったが、高齢化も進み、現役をリタイアしたシニア世代人材を活用するという考えも産業振興ビジョン策定時にはあったかと思う。しかし、地域経済動向調査の結果をみると、若手、中堅層を企業は求めているようで、人材もハローワークを利用している。潜在的にあるシニア人材の活用の働きかけが必要に思う。</p> <p>また産業振興ビジョンの浸透度がまだまだ低いようなので、企業・市民向けに機運を盛り上げていくような広報をして欲しい。</p>
会長	<p>企業誘致や新産業の創出を含めて、市としてのビジョン（どういう産業のあり方を求めていくのか）が、これから長い視点で必要になるだろう。必要であれば、市のたたき台、方向性を基にこの推進会議の場で議論してもいいだろう。</p> <p>シニア世代の活用、例えばコミュニティ・ビジネスとの関係をどう捉えるのか、一般企業にどうつないでいくのかも重要だろう。</p> <p>また地域経済動向調査結果を有効活用して欲しい。景気の動向と生産性との関係や地域産業のあり方との関係など、今の状況を把握</p>

<p>委員</p>	<p>するとともに、時系列に積み重ねていくことで、産業分野ごとの状況などを把握できる。加えて、産業振興ビジョンの浸透度の話もあったが、政策的にも有効活用して欲しい。</p> <p>三ヶ島工業団地は、当初 19 社の予定が僅か 5 社で始まった経緯のある工業団地であるが、現在拡張に向けて進めている。そのなかでの拡大は稀にみる事例で、環境省が最後に作った工業団地でもあり、国の支援もお願いしたいと思っている。</p> <p>所沢市をヘリコプターで空から眺めると、西武線で分断されている。踏切を渡らないと向こう側に行けない。これは経済損失であると提言した人がいる。実際、今日、三ヶ島工業団地から市役所まで 45 分かかった。経済は両輪で動いていかないといけないものであり、インフラの話は直接産業経済部の話ではないが考えていただきたい。</p> <p>また『所沢ブランド』について、どのように決まっているか、やはりわからないし、不思議な印象を持っている。誰がどのような条件で明確に決めているのか。50 年、100 年の歴史ある企業にも光っている製品・商品があるはずである。何故、所沢ブランドにならないのか。数年でできた製品であれば、短命で終わるかもしれないという不安がある。歴史はうそをつかないし、続いているのは理由がある。そういうところから発掘するのも、産業経済部の仕事であろう。</p> <p>ハローワーク関係も携わっているが、国では B C P（事業継続計画）を作成しようという動きがあり、自分の会社でも準備している。オーナー企業の事業継承で B C P があるのだが、一般に中小企業の総務は、家族・親族の場合が多く、高齢化が進んでいる。人事・労務・財務・経理・庶務とあるが、5 つすべてができる人は大企業にはいない。ただ総務部門にはコストをかけられず、少人数が普通という状況だが、総務にも注目した支援策を検討いただきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>所沢ブランドについての選定のあり方、選定のプロセスへの意見があったので、重たい意見として配慮・検討をお願いしたい。</p> <p>今日の意見は、この場で一つ一つ最終的に議論して結論を出していくという性格のものではないが、事務局で整理してプロジェクトにも反映させて欲しい。</p> <p>まとめとして意見を付け加えると、資料にあった産業振興ビジョン推進会議報告書は非常に丁寧にまとめられていた。委員の主な意</p>

	<p>見も、重要なポイントをエッセンスとして整理していたのは評価できる。プラスするならば、今年度の事業の取組みに関して、推進会議の議論（委員からの意見等）をどのように受け止めたのかも反映させて欲しい。</p> <p>また商業、観光、工業、農業について考えるとき、まちづくり、まちのあり方と結び付けていくことが、これから大事になってくるのではないか。観光については、まちづくりと結びつけることはかなり明確にされているが、例えば商業は、商いの場と公共の場、両方の性格があり、所沢というまちの位置づけにどう結び付けていくのか。商店街の機能をまちの中にどう取り込んでいくのか。まちづくりのセクションと連携していくことも必要であろう。全国的に見て、中心市街地活性化計画が必ずしもうまくいっていないことを考えると、新たな視点で考えてみる必要があると思う。</p> <p>さまざまな取組み、手法もあり、まちづくり部局と連携しながら、まちの中での産業のあり方を考えていくべきだろう。</p>
会長	<p>それでは、議事（3）その他について、事務局からございますか。</p>
事務局	<p>議事（3）その他について</p>
青木（邦）課長	<p>次回第2回産業振興ビジョン推進会議の日程は8月28日（水）午後3時からを予定している。会場は、市役所南側の所沢航空記念公園内にある所沢航空発祥記念館の1階研修室で開催する。</p>
青木（邦）課長	<p>長時間にわたりご意見、ありがとうございました。本日の会議での意見・課題は事務局で整理して、次の推進会議で回答したい。</p>
	<p>（閉会）</p>